

第3回 小鹿野町役場庁舎検討委員会（要点筆記）

日 時	平成29年2月3日（金）	開会	午後1時30分
		閉会	午後3時30分
会 場	小鹿野庁舎 第1会議室		
出席者	丸山陽生 佐藤恭平 原口悟志 山崎勉 吉田恭典 黒沢裕幸 笠原憲一		
	柴崎好一 坂本好司 多比良キヨ子 町田考子 今井清 鷗田静江		
	丸岡庸一郎 黒沢一男		
	（事務局 黒澤総務課長、須藤）		
傍聴者	岩田和幸 強矢福司 新井富士男 吉岡勇 豊原邦明		
	日本工業経済新聞記者		

内 容	
発言者	発言の要旨
	（開会のあいさつ）
総務課長	本日欠席者が4名おります。
丸山委員長	議題（1）第2回会議の要旨について 委員から意見はありますか 意見がないようなので前回の会議の議事録といたします。 前回の会議で町の人口動態についてどうなっているのかとの意見があり、事務局が資料を用意したので説明をお願いします。
	事務局説明
坂本委員	人口が減っているが、町はどうとらえるか
総務課長	町は8,000人規模の人口を維持するという考えで総合戦略を考えている。
丸山委員長	人口減少が進むという資料が出ているが、それを踏まえて庁舎の在り方について検討していただきたい
丸山委員長	議題（2）役場庁舎の在り方について
総務課長	前回の会議での庁舎の視察、人口動態の予測資料を踏まえて、庁舎の機能・規模についてご意見を賜りたい。
丸山委員長	庁舎の視察を踏まえて、忌憚のない意見・要望を出していただきたい。
山崎委員	人口が8,000人を割ると、町として経営ができないという解釈でよいのか、8,000人を切ったらどこかと合併するのか、町が合併しなくてもいられる人口はどのくらいか。 町として人口減少に対する対策があるのか、人口を増やすためそれなりの努力をする計画があるのか。 15年後に人口8,000人くらいになるが、15年しか使わないのに新しい庁舎を作るのはもったいない。
総務課長	人口が少なくなっても町として存続はできると思う。人口が少なくなったから合併するというのではない。30年・40年先でも生き残ることはできると思う。生き残っていくためにも8,000人くらいを維持したいと思っている。 人口が減ってくれば行政サービスをどうするかを考えることが必要になる。人口維持も難しい時代になった。町が存続する形で庁舎について考えていただきたい。
多比良委員	町長の挨拶の中に、「耐震診断の結果庁舎が危険である」とあった。機能・規模というのは建替えるのか、補強するのか決まってから考えるべき。 補強して10年持たせると建替えて40年持つのとどちらが価値観があるのか。7月より前でも皆さんの意見がまとまれば答申しても良い。

黒沢裕幸委員	委員会の開催予定では、今日の会議では、補強・建替え又は移転となっている。当初の予定と違っている。補強なのか建て替えなのか決めないといつまでも進まない。
丸山委員長	今日の会議では皆さんに意見を出してもらう。
総務課長	皆さんから意見を聞きたいという意味で機能・規模という議題にした。議題の出し方がまずかったが、委員会が主体となって進めてもらいたい。
黒沢一男委員	8,000人しかいないのに庁舎が必要なのか、町が生き残ることが先だ。町に必要な庁舎があればそれに合うように造る。町の発展を考えてから建物のことを考えればよい。検討委員会はそのあとでよい。
総務課長	役場庁舎はどうあるべきかを考えた。それで機能・規模についての意見を聞きたいと考えていた。
多比良委員	耐震診断の結果この庁舎は危険であるという結果が出ているので、この庁舎をどうするか、建て替えか補強かを検討することが諮問されていることだ。
黒沢一男委員	町長が出席して責任者として判断してほしい。
笠原副委員長	検討委員会は資料を見て委員会の案を出すことが役割だ。建て替えや空き施設への移転や3つくらいの案を出すことが良い。意見を出して町長に結果を出せればよい。
黒沢一男委員	いずれにしても、庁舎を直すのか、建て替えるのかを検討すること。
笠原副委員長	前回の会議で、庁舎の資料や現状を見た。それで意見を出してもらいたい。
丸山委員長	皆さんには意見を出してほしい。いくつかの意見を出して最終的に煮詰めていく。
原口委員	人口減少は小鹿野だけではなく、秩父全体、埼玉全体の問題、人口8,000人で引き留めようと検討してもらっている。 町の中心は役場になると思う。 資料を見ると、庁舎の危険度が高い。その中で町が回っているかと思うと怖い。働いている職員も危険にさらされている。災害の起きた時の拠点にもなるので、役場は安全なものではなくてはいけない。
山崎委員	庁舎を造ることを前提に考えてはどうか、造るとしたら検討委員会はこのものを造りたい、というところから詰めていく。その次の段階で、造らないなら直すのか、だんだん幅を狭めていかないといつまでたってもまとまらない。
笠原副委員長	この会は造ることが前提ではない。
丸山委員長	この会は副委員長のいうとおり、造ることが前提ではなく危険な庁舎をどういう方向で考えていくのか検討する会である。造るとしたら、場所はどこがいいのか、という方向性を出すことがよい。
黒沢裕幸委員	廃校になった三田川中学がまだ新しいが耐震はどうなのか。消防署も三田川に移転した。両神や三田川を考えると中心にある。 柿などの加工施設で農家の人も集まり、賑やかな中心となる機能がある。耐震がどうなっているかも必要だ。
多比良委員	今の庁舎をお金をかけて直して使うか、既存の施設を使うならどうに活用するのか、建て替えるかなど、3つくらいの選択肢を出して町長が判断する材料にすればよい。
丸岡委員	建築の立場で言うと、庁舎をどうするのかというのは、建て替えか、補強か、補強しないで使うかという選択肢となる。そうした選択をしていくには、工事の費用だけでなく、建物のライフサイクルコストがどのように想定されるかなど最低限の資料がないと難しいと思う。 建替えしても建替えしないとしてもそれぞれメリット・デメリットはある。すべてメリットだけで全部同時に満たすことはできない。補強して使う場合も使い勝手等の制約がでる可能性もあり、その場合そこは我慢するところも出てくることも考えられる。
総務課長	黒沢裕幸委員の質問に対して 長若・三田川・両神中学校は耐震化は終わっている。 長若中学校 昭和63年竣工 あと20年は使える。 三田川中学校 昭和50年と平成元年の校舎がある、昭和50年はあと8年、元年はあと20年使える。 両神中学校は昭和57年 あと15年使える。 耐用年数は補助金の関係で記したもの。

黒沢裕幸委員	小鹿野庁舎、両神庁舎のいずれかを残すのか方向性を出してほしい。
総務課長	空いている学校の施設のデータなどの資料は次回配布する。
山崎委員	中学校の再利用の計画の資料があれば出してほしい。どういう風に改築・解体するのか、教育委員会がどんな考えをしているのか。 避難場所にもなるので学校の再利用はしないほうが良い。
原口委員	耐久年数とはどういうものか。構造的に役場庁舎のようにコンクリートでできているものの耐久年数は一般的にどれくらい持つのか
丸岡委員	一般論として、前提として適切な施工がなされ、適切な維持管理がされていれば、耐久年数はそれなりの長寿命は持たせられる場合も多い。先ほどから出ている耐用年数は税法上のコンクリートの償却年数を言っている場合が多い。 学校も庁舎も耐震補強できる可能性は多い。建物によっては60年以上持たせている建物もある。それにはライフサイクルコストの考慮や使い勝手等我慢しなければいけないところもある。 建物は部材ごとに耐久年数が違うもので構成されている。各部材をうまく改善していけば持たせることはできる。ただし、その建物をどのくらいの期間使っていくかについては、建設当初のコストだけでなく、そのあとの維持にどのくらいかかるかも考えて、総合的に判断していく必要がある。
黒沢一男委員	今までの状況を勘案して、この庁舎がこのままの状態でのどのくらい使用可能かわかるのですか
丸岡委員	100年に1回といわれるような大地震等考えた場合、危険もある可能性も考えられますが、その地震は明日起きるのか99年後に起きるのかわからないので何とも言えない。今後のメンテの仕方にもよるし、対地震への安全性等について、使う人がどう判断するかによる。
吉田委員	庁舎の補強をしないで三田川中に移るのが良いと思う。
山崎委員	杉の木の再活用でログハウスのような庁舎に建替えることを希望する。町のシンボルにもなり、活性化にもなる。
島田委員	建替えや補強にどのくらい資金がかかるかわからないが、平成33年から財政が厳しくなるという説明があった。
丸山委員長	この委員会ではお金については考えなくても良いのではないかな。方向性だけ出せばよいのではないかな。
黒沢一男委員	予算のことも踏まえて、委員が学んで良い結論を出すことが良い。
総務課長	予算のことは一番重要かと思う。でも、委員会としては考えなくても良いのではないかな
原口委員	皆野町・長瀬町の庁舎の金額はどうか。 庁舎は1つがよい。2か所になると、庁舎として使いづらい。災害時の拠点となるので、建て替えが良い。
山崎委員	庁舎が分かれていると、行ったり来たりになってしまうことがある。庁舎は1か所が良い。
笠原副委員長	建て替えか、移転・補強の2つしかないと思う。建替える場合と建替えない場合に絞って意見を出したほうが良い。
総務課長	資料を見て意見が替わることもある、何回か会議をもって意見を出していただく。
黒沢裕幸委員	住民の公平性を考えて町の中心に庁舎を建てるべき。
丸山委員長	次回の会議には今日出た意見を踏まえながら進めたい。 本日の会議は閉会してよろしいでしょうか。第3回委員会を閉会します。